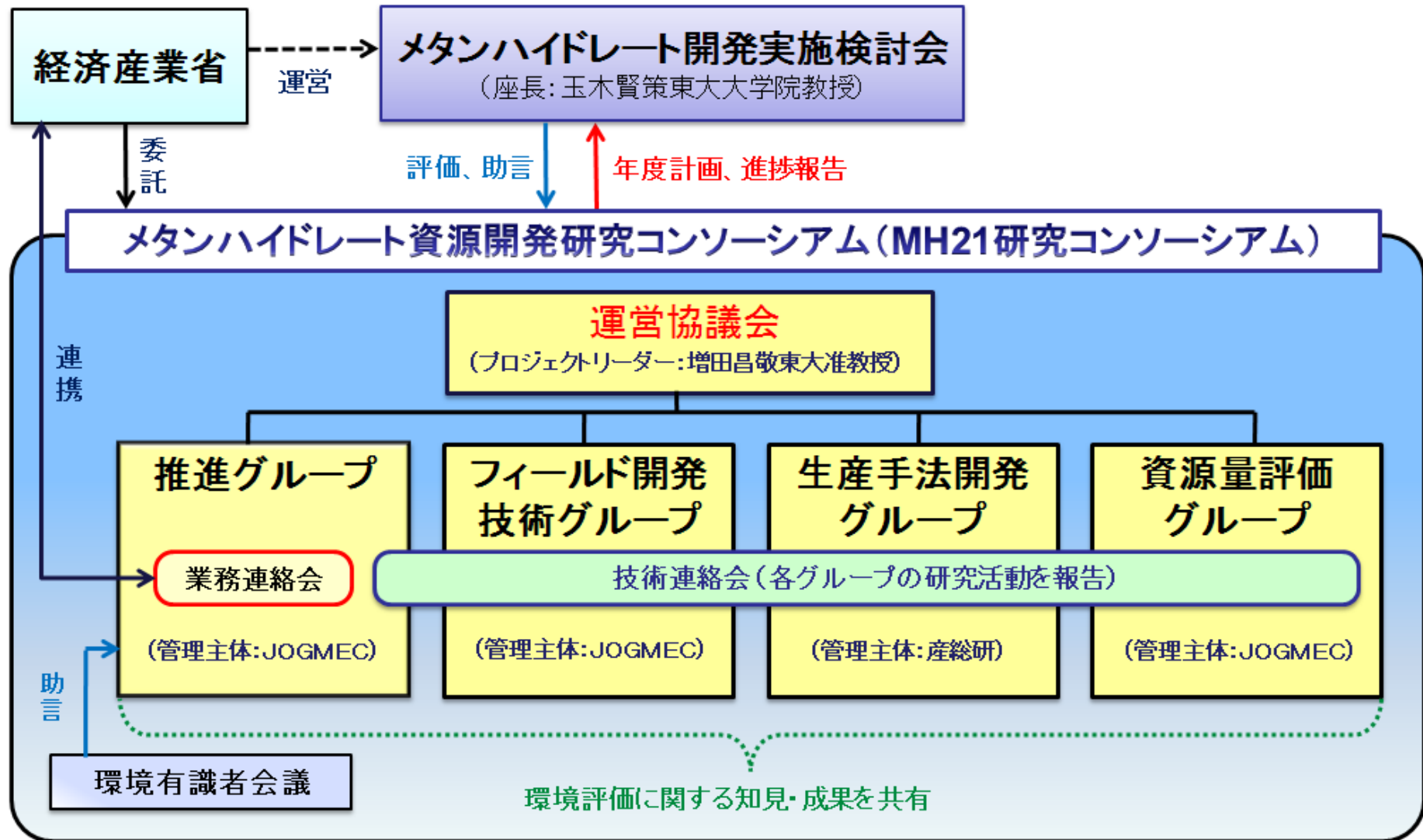


推進グループ 平成22年度事業報告 平成23年度事業計画

MH21推進グループリーダー
磯部 人志

平成22年度事業報告

平成22年度の実施体制



企画・運営業務

- ◆ 業務連絡会運営： 12回開催
- ◆ 運営協議会運営： 3回開催
- ◆ 技術連絡会運営補助： 2回開催
- ◆ 特許出願・公開・登録管理
- ◆ MH21内グループウェアの構築・運用
 - コンソーシアム内利用者数：136名
 - 利用者への情報提供数：21件
- ◆ 外部発表管理



(参考) 運営協議会メンバー

プロジェクトリーダー

東京大学 増田 昌敬

サブプロジェクトリーダー

(独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 大野 健二

(独) 産業技術総合研究所 成田 英夫

委員

(独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 佐伯 龍男

(独) 産業技術総合研究所 天満 則夫

石油資源開発 (株) 福田 賢

日本海洋掘削 (株) 中村 雅洋

日本オイルエンジニアリング (株) 岡田 陽

鹿島建設 (株) 藤村 久夫

(財) エンジニアリング振興協会 三浦 秀夫

※ その他、オブザーバーとして各GL及び資源エネルギー庁担当者等が参加。 4

特許出願・公開・登録

◆ 特許公開

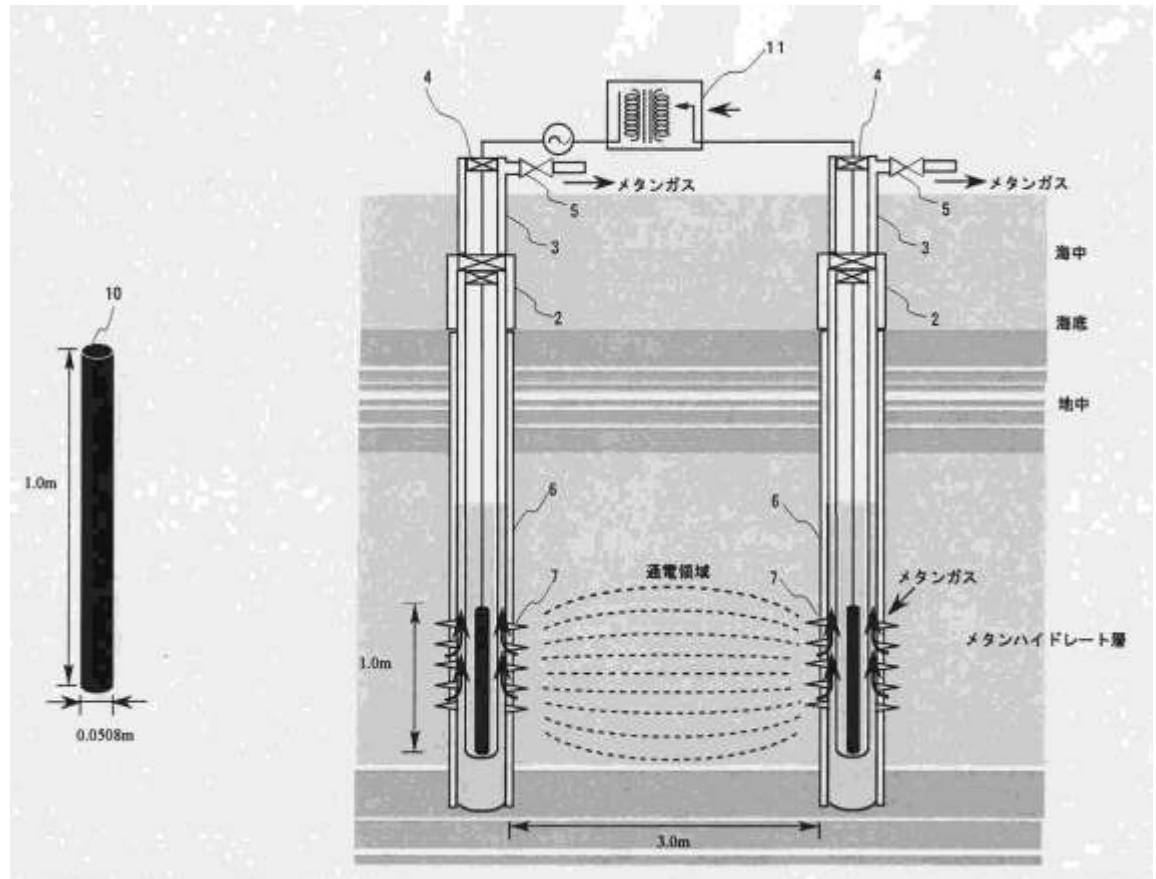
➤ 公開日:2011年1月20日 (出願日:2009年7月2日)

出願人:独立行政法人産業技術総合研究所

発明の名称:メタンハイドレート分解方法及び装置

◆ 課題

メタンハイドレート層から、
低電力で安全に、しかも
効率よくMHからメタンを
採取することを可能とする。



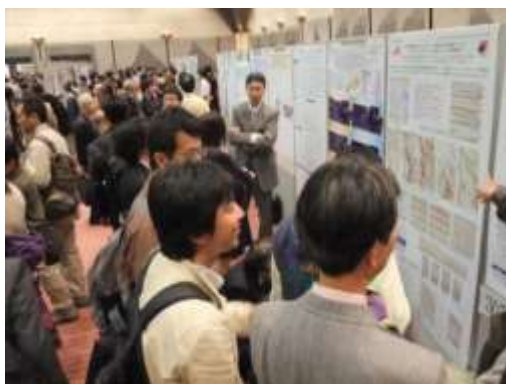
◆ 特許登録

- 特許番号: US 2010/0082257 A1 登録日: 2010年4月1日
特許権者: Schlumberger Technology Corporation
発明の名称: Methods and system for acoustically monitoring formations
- 特許番号: 4543232 登録日: 2010年7月9日
特許権者: 独立行政法人産業技術総合研究所
発明の名称: メタンハイドレートの分解方法及び分解装置
- 特許番号: 4662232 登録日: 2011年1月14日
特許権者: 鹿島建設株式会社
発明の名称: ガスハイドレートの生産方法及びシステム

平成22年度外部発表件数

	学会発表	講演・報告	論文発表 (査読あり)	投稿 (査読なし)	資料提供 (教育)	資料提供 (マスメディア)	資料提供 (その他)
平成22年度	96	19	8	109	9	23	27
合計	291						

(平成23年2月末現在)



「日本地球惑星科学連合2011年大会」

会期: 2010年5月23日～28日

会場: 幕張メッセ国際会議場



「2010年度日本海洋学会秋季大会」

会期: 2010年9月6日～10日

会場: 東京農業大学生物産業学部



「メタンハイドレート資源開発国際シンポジウム」

会期: 2010年11月15日～17日

会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター

広報業務

◆ WEB (MH21ホームページ)

- フェーズ2ホームページ(英語版)制作→平成22年10月1日公開
- イベント情報・関係資料の更新
- アクセス数:152,118件(平成23年2月末現在)
- 質問コーナーへの個別回答: 44件(平成23年2月末現在)

◆ マスメディア等取材対応

- テレビ・ラジオ:5件
- 新聞・雑誌:9件
- その他:3件(平成23年2月末現在)

フェーズ2ホームページ(英語版)

MH21 Research Consortium

Research Consortium for Methane Hydrate Resources in Japan

Font size AAAAA

"Research Consortium for Methane Hydrate Resources in Japan" (also known as MH21), an industry-government-academia collaboration research group established in FY2001 in order to undertake research in accordance with "Japan's Methane Hydrate R&D Program" announced in July 2001.

"Japan's Methane Hydrate R&D Program" is comprised of three phases. Phase 1 was finished in FY2008 and Phase 2 was started in FY2009.

This website introduces information concerning methane hydrate development in Japan, including basic information on methane hydrate and the accomplishments of MH21 in Phase 1.

All about methane

- What is methane
- Exploration of methane and assessment
- Production of gas hydrate
- Methane hydrate and cost-effective
- Methane hydrate and environment

Greetings

Welcome MH21 website

Research Consortium for Methane Hydrate Resources in Japan
Phase 2 Project Leader
Yoshihiro Masuda
Associate Professor, Dr.Eng.
Frontier Research Center for Energy and Resources (FR CER)
School of Engineering
The University of Tokyo



MH開発に係わる海外動向調査

海外動向調査(カントリーレポート)

- ◆ 政策レベル情報
- ◆ マスメディアレベル情報
- ◆ 論文・学会レベル情報

フェーズ1(平成20年度まで)
カントリーレポートの作成(紙媒体中心)

電子データベース化(構築済)

MH動向情報データベース

情報へのアクセス レポート作成 カスタマイズ

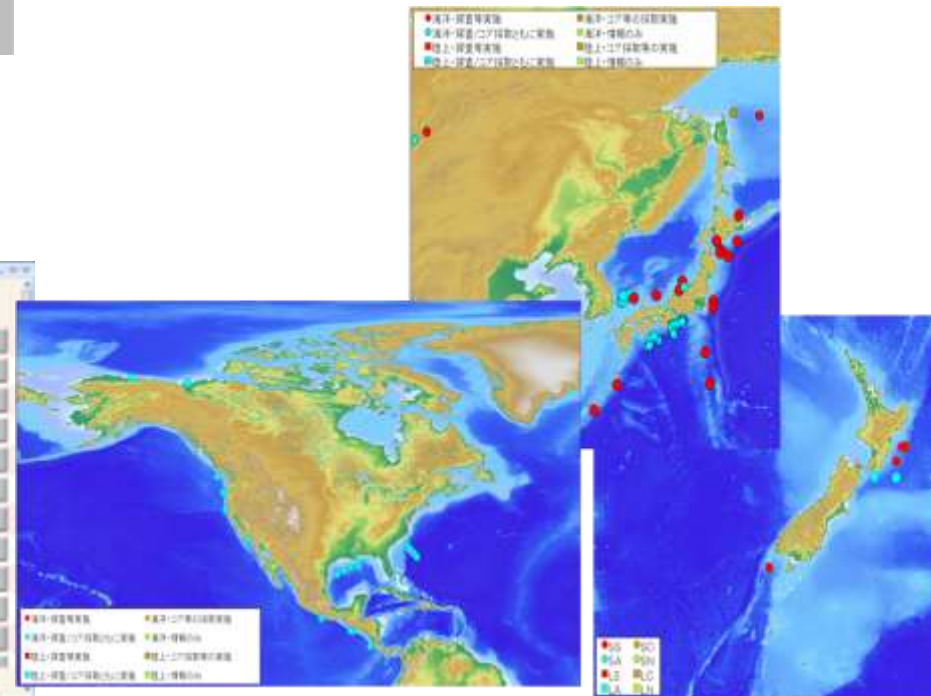
基本情報 カントリーレポート 世代編集
マスメディア情報 論文情報編集
学会情報 世界のMH分布
その他 MH向け収録施設

終了

※主エントリ検索履歴は自動的に更新されません。ご注意ください。

学術情報タイトルリスト

ID	国名	タイトル	開示	編集
20100001_01	中国	Gas hydrate associated with mud volcanoes in southern offshore Taiwan, T104E1	開示	編集
20100001_02	アメリカ	Methane sources and sequestration in the northern Gorda margin gas hydrate	開示	編集
20100001_03	ニュージーランド	Founding Tug Tox on the Haurangi Margin, New Zealand: Evidence from	開示	編集
20100001_04	アメリカ	Enriched gas hydrate saturations estimated from various well logs	開示	編集
20100001_05	中国	The methane hydrate formation and the resource estimate resulting from free gas	開示	編集
20100001_06	アメリカ	BP&A-USDOE-USGS Mount Elbert Gas Hydrate Strategic Work, Test 199, Alaska	開示	編集
20100001_07	アメリカ	Geologic Framework of the 2005 Alaskan Central gas hydrate research well	開示	編集
20100001_08	アメリカ	Experimental investigation of gas-water relative permeability for gas hydrates	開示	編集
20100001_09	アメリカ	Occurrences of gas hydrates in Oligocene Proterozoic Alamosa Group Basin, N.M.	開示	編集
20100001_10	アメリカ	Exploration for gas hydrates in the continental northern Gulf of Mexico Part I	開示	編集
20100001_11	アメリカ	Electromagnetic surveying of gas-floor mounds in the northern Gulf of Mexico	開示	編集
20100001_12	アメリカ	Fracture-controlled gas hydrate systems in	開示	編集



平成22年度文部科学大臣表彰 科学技術賞受賞

平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(研究部門) 受賞者一覧

文部科学省ホームページ
<http://www.mext.go.jp/>

番号	ふりがな氏名	年齢	職名	業績名
24	たなか しょういち 田中 彰一	75	国立大学法人東京大学 名誉教授	メタンハイドレート生産手法の研究
	なりた ひでお 成田 英夫	60	独立行政法人産業技術総合研究所 メタンハイドレート研究センター 研究センター長	
	くりはら まさのり 栗原 正典	55	日本オイルエンジニアリング株式会 社 取締役開発技術部部長	
	やまもと こうじ 山本 晃司	46	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱 物資源機構 石油開発技術本部 R&D 推進部 メタンハイドレート研究 チーム 調査役	



平成22年4月13日
文部科学大臣表彰授賞式
(京王プラザホテル)



石油技術協会 第54回業績賞受賞



石油技術協会

The Japanese Association for Petroleum Technology

[ホーム](#) | [サイトマップ](#) | [お問い合わせ](#) | [リンク](#) | [個人情報保護方針](#)

🔍 サイト内検索

石油技術協会ホームページ
<http://www.japt.org/index.html>

協会概要

行事・報告

技術委員会

出版物

入会案内

English

★ [TOP](#) > [行事・報告](#) > [表彰](#)

表彰

学問・技術に関する表彰

	賞	論説名・業績	受賞者
第54回	業績賞	メタンハイドレート資源探査・開発技術にかかわる研究	田中 彰一・メタンハイドレート資源開発研究コンソーシアム

これまでの表彰内容と受賞者は下記リンク先に掲載しています。

- [第51回～第53回](#)
- [第41回～第50回](#)
- [第31回～第40回](#)
- [第21回～第30回](#)
- [第11回～第20回](#)
- [第1回～第10回](#)



平成22年6月8日
石油技術協会
第75回定時総会
(福岡市 福岡国際会議場)

平成22年度 日本エネルギー学会賞

平成22年度 日本エネルギー学会表彰 受賞者と業績

日本エネルギー学会ホームページ

<http://www.jie.or.jp/>

○ 学会賞（学術部門）

受賞者 独立行政法人 産業技術総合研究所 成田英夫

業績 メタンハイドレート資源からの天然ガス生産手法の開発に関する研究

メタンハイドレートは、我が国の周辺海域にも、多く存在すると推定され、エネルギー資源に乏しい我が国のエネルギーセキュリティ向上に資する次世代クリーンエネルギー資源として、脚光を浴びている。このメタンハイドレート資源から天然ガスを生産するため、2001年度から2018年度の18年間に及ぶ「我が国におけるメタンハイドレート開発計画」が開始された。

同氏はこのナショナルプロジェクト策定に中心的役割を果たすとともに、プロジェクトにおいては陸域や海底の地層内に固体として存在するメタンハイドレートを分解して効率的に生産する新たな技術開発を主導した。採掘現場の条件を模擬する生産シミュレータを開発し、各種採取手法について生産性、経済性等を解析・比較検討して、「減圧法」がメタンハイドレート資源に対して最もエネルギー効率、経済性に優れた手法であることを明らかにした。そして2007年にカナダでの陸上産出試験において、「減圧法」によって実際のメタンハイドレート貯留層から、連続的にメタン生産が可能であることを実証した。これは、メタンハイドレート実用化につながる、同プロジェクトにおける最も顕著な研究成果となっている。

また、プロジェクトにおいて構築した研究基盤、研究資源を活用して、産業界、大学から広く研究人材を受け入れ、将来のメタンハイドレート開発、生産を支える人材育成の面においても極めて大きな功績を挙げている。

以上の業績により、同氏は本会、学会賞（学術部門）に値する。

第85回通常総会（平成23年2月22日）



メタンハイドレート資源開発国際シンポジウム開催

日時:平成22年11月15日-17日

場所:国立オリンピック記念青少年総合センター

主催:  JOGMEC  Natural Resources Canada  Ressources naturelles Canada  GEOLOGICAL SURVEY OF CANADA  COMMISSION GÉOLOGIQUE DU CANADA 

共催:  METI  MH21  AURORA RESEARCH INSTITUTE

座長:大野健二(JOGMEC R&D推進特命審議役)
David Boerner(加天然資源省臨時副大臣)

参加者数:329人(うち海外から76人)

参加国数:22カ国

International Symposium on
Methane Hydrate Resources
From Mallik to the Nankai Trough
November 15-17, 2010 Tokyo, JAPAN



Methane hydrate is currently being considered by a number of countries as a next-generation energy resource to complement, or even replace conventional hydrocarbon sources. However, challenges for the realization of methane hydrate as a viable energy resource are significant. Improved tools and techniques are required to quantify in-place gas hydrate resources, and methods and procedures for the safe and environmentally sound completion of production wells should be tested and verified for future long-term commercial field developments. At this stage of methane hydrate research and development there is considerable potential for collaboration amongst the national methane hydrate research programs. The primary goal of the symposium will be to provide an

Call for Abstracts

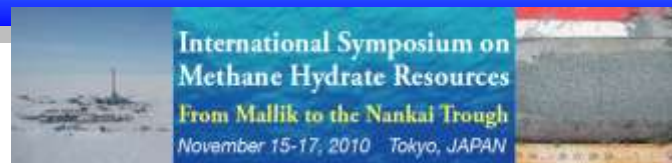
Registration

overview of recent research achievements by Japan to characterize methane hydrate in the Nankai Trough area, and by Canada and Japan to quantify the production response of permafrost gas hydrate in the Mackenzie Delta.



メタンハイドレート資源開発国際シンポジウム開催

国際シンポジウムスケジュール



	11月15日(月)	11月16日(火)	11月17日(水)		
場所	国際交流棟	国際交流棟	センター棟		
	国際会議室	国際会議室	309会議室	310会議室	311会議室
午前	9:30 受付 10:30 開会挨拶 大野健二 (JOGMEC) David Boerner (NRCan) 11:00 基調講演(日本) 11:45 基調講演(カナダ)	9:00 セッションB [マリック陸上産出試験の (2007-2008)成果報告]	11:00 ポスター セッション	10:00 セッションD1 11:00 セッションD2 [マリック・南海トラフ産出試験 (D1, D2とも)]	10:00 一般報告会 「メタンハイドレートとは何か」 11:00 一般報告会 「メタンハイドレートの探鉱手法」
	午後	14:00 セッションA [メタンハイドレート開発研究の国際的な取り組み] (米国、韓国、インド、ドイツ、 ニュージーランド、台湾などの 研究者による講演) 18:00 カンファレンスディナー (於:レセプションホール)	13:30 セッションC1 [南海トラフ] 15:30 セッションC2 [南海トラフ] 16:30 パネルディスカッション 18:15 マリックナイト (於:レセプションホール)	13:30 ポスター セッション	13:30 セッションE1 [地質・探査・貯留層評価] 15:00 セッションE2 [室内実験・数値シミュレーション] 17:30 閉会の挨拶

平成23年度事業計画



◆企画

- 海外動向調査継続・整理
- 一般向け報告会(平成23年秋頃予定)

◆運営

- 運営協議会、業務連絡会の運営、技術連絡会の運営補助
- 特許出願・公開・登録の管理
- 外部発表などの管理
- グループウェア運用・管理・情報提供

◆広報

- マスメディア等取材対応
- ホームページ質問コーナー対応
- ホームページの随時更新

平成23年度各分野予算額

分野	予算額(単位:百万円)
【独/石油天然ガス・金属鉱物資源機構】	
フィールド開発技術	7,732
資源量評価	284
推進(企画・運営・広報・環境)	323
【独/産業技術総合研究所】	
生産手法開発	570
資源量評価	19
合計	8,929

* 分野ごとに、百万円未満切捨て